



気象変動に打ち克つ米づくり

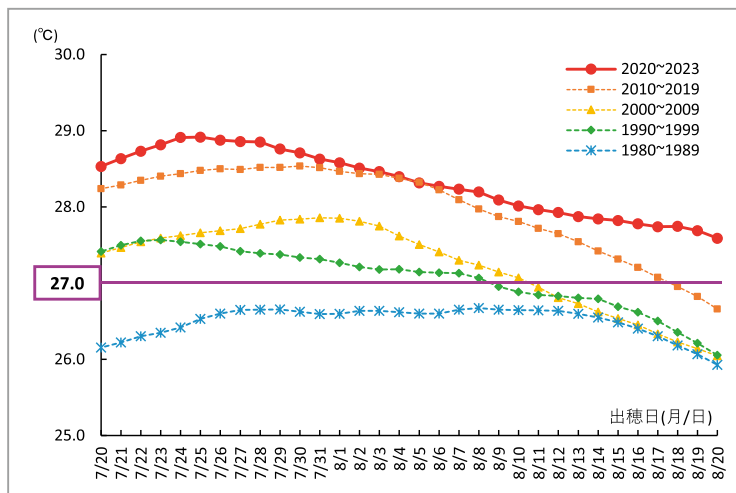
Part1 ～気象変化と米の品質状況～



滋賀県の彦根地方気象台の観測データによると、年平均気温が100年で約1.4℃上昇し、猛暑日や熱帯夜の日数も増加しています。右の図によると、近年は、出穂後20日間の日平均気温は白未熟粒が急激に増加するとされる27℃を超えることが常態化しています。

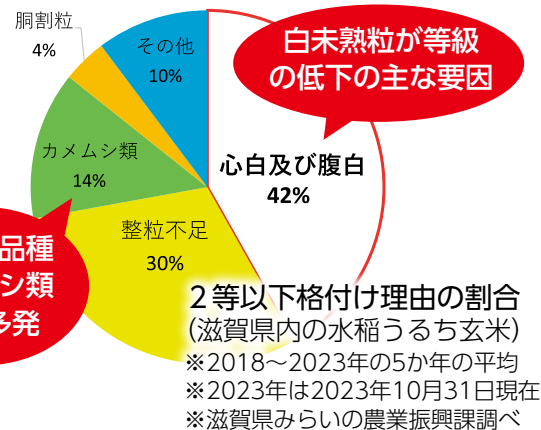
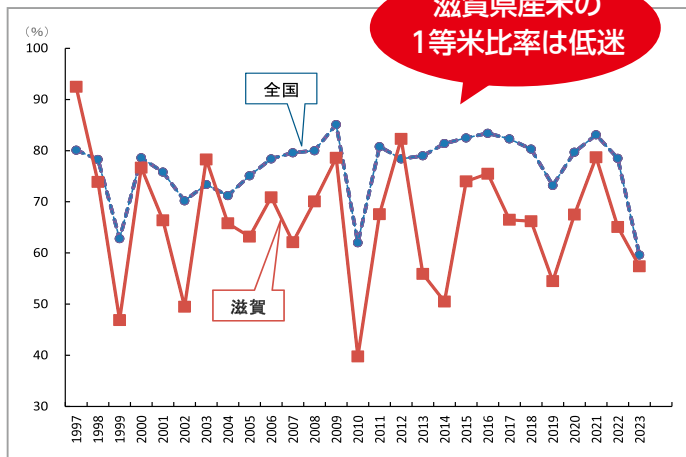
水稻出穂後20日間の日平均気温の平均値(彦根)

※気象庁彦根地方気象台の気象観測データ



1等米比率の推移

※農林水産省「農産物検査結果(水稻うるち玄米)」
(2022: 2023年3月31日現在、
2023: 2023年9月30日現在)



今回は「気象変動に打ち克つ米づくり」のポイントを連載します。

営農指導活動

pick up 京都野菜卸売組合 産地見学会 レーク伊吹に來訪される

秋冬野菜の本格出荷を前に、北近江野菜の販売先を強化している京都青果から、取引のある卸売関係者22名が10月30日に秋冬野菜の産地見学会に來訪されました。JAの重点品目であるブロッコリー・白ねぎの産地取組・生育状況や、生産者の収穫・選別作業を見学され、管内の生産者8名との意見交換会も行いました。

年々、北近江野菜の生産・出荷量も増加しています。いち早く需要動向や栽培情報を収集・発信する事で、安定生産・安定出荷に向けての相談やサポートをさせていただきます。



特産振興課
営農指導員
藤原 良輔